

千葉先生をお送りするにあたって

濱 本 恵 康

(本学大学院教育学研究科 音楽文化教育学講座 主任)

In Honour of Professor Jun'nosuke Chiba

Yoshiyasu HAMAMOTO

千葉先生は、平成16年4月、広島大学大学院教育学研究科教授として赴任されました。以来、本学において卓越した識見と高潔な人格、そして温かいお人柄をもって学部・研究科の充実と発展に寄与されました。主として音楽科教育内容学分野（音楽学）の教育・研究に従事され、学生の教育・指導において幅広い学識と深い専門知識に裏付けられた卓抜な指導力を発揮され、音楽界・学界あるいは教育界に多くの有為な人材を送り出されました。

学術研究面におかれましては、第一に日本近代音楽史の一環である宮城道雄研究が挙げられますが、この一連の研究は『宮城道雄音楽作品目録』の出版、および音源による『宮城道雄作品規範集成』の刊行をもってひとつの区切りとなっており、これらは現在に至るまで当該分野の研究者ならびに愛好者の必須の文献・資料として高い評価を得られています。このほか、中世ヨーロッパのラテン語による音楽文献や、17世紀イングランドの音楽文献の翻訳などの作業を通じた音楽史学の共同研究にも携わられ、それらの研究成果は学界において実証的音楽史学の発展に大きく寄与されています。

大学運営面におかれましても、教育学研究科生涯活動教育学専攻長、音楽文化系コース主任、音楽文化教育学講座主任、同副主任、研究・評価部会委員、同副部会長、図書館教育専門部会委員を務めるなど、学部及び大学院並びに大学の管理・運営にも大きく貢献されました。

社会におかれましては、広島交響楽協会理事、中国ユース音楽コンクール企画委員をはじめ、多くの音楽コンクール審査員も歴任され、地域の音楽文化の発展に貢献されました。加えて、演奏活動にも携わられ、中でも昭和53年から所属されているカテリーナ古楽合奏団における内外での広範な演奏活動は、ヨーロッパ中世の世俗音楽を「楽しめる」音楽としてわが国に定着させたばかりではなく、公刊されたCDの演奏は海外からも高い評価をもって受け入れられています。学内においても、課外活動として室内楽研究会を立ち上げられ、学生の弦楽器のアンサンブル技術の向上に寄与されました。

先生が無事にご定年を迎えられましたことは、お慶びすべきことかもしれませんが、今日に至るまで精力的に研究、教育に邁進してこられた若々しさを目の当たりにしますと、もうご退職されるお歳であるなどとは到底想像もできず、むしろ残念な思いの方を強く感じる次第です。

先生には感謝の意を表するとともに、今後とも新天地でライフワークを継続され、これまでも増して充実したご研究を続けていただきたいと願う次第です。